

2020 年 12 月 17 日

日本ヘルニア学会 会員各位殿

理事長 早川哲史
学術・用語委員会 委員長 三澤健之

「2021 年版 鼠径部ヘルニア分類（新 JHS 分類）」運用のお願い

謹啓、時下、会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。ご存知の通り、日本ヘルニア学会：JHS（旧 日本ヘルニア研究会）は、2006 年 4 月、独自の 2006 年版 鼠径部ヘルニア分類（JHS 分類）を提唱し、以来、皆様の実臨床に役立つよう情報を発信してまいりました。当時はまだ国際的に統一された分類がなかったこと、また腹腔鏡下修復術にも対応可能な新分類の策定が急務であったことを鑑みて、本邦初の分類を発信した経緯がございます。

しかしながら、ごく最近、HerniaSurge Group から発表された International guidelines for groin hernia management（文献 1）の中で、鼠径部ヘルニア分類として European Hernia Society の分類（EHS 分類）（資料 1）を推奨するとの記載がありました。本ガイドラインはヨーロッパ、アメリカ、アフリカ-中東、オーストラリア、そして日本が所属するアジア-パシフィックの各ヘルニア学会による合意として、世界 19 カ国から 50 人の専門家が参加して作成した初めての国際基準です。その中で、推奨度は高くはない（low）ものの、多数存在する鼠径部ヘルニア分類の中で EHS 分類だけが推奨された事実を、JHS として看過するわけにはいかないとの判断から、理事会、評議員会で慎重な議論を重ねてまいりました。

その結果、JHS といいたしましても、今後は、従前の 2006 年版 JHS 分類に代わって「2021 年版 鼠径部ヘルニア分類（新 JHS 分類）」を推奨すべきとの結論に至りました（資料 2）。その主なる理由は、今後、我が国の外科医、特に若手外科医がその研究成果を国際学会や英語論文を通じて遅滞なく世界に発信、あるいは国際的な場で対等の議論を行い得るためには、基本となる分類法を世界標準と同じくさせる必要がある、というものです。また折しも、2021 年から鼠径部ヘルニアに関する NCD への入力項目が増えることになったため、今後ここに蓄積されるデータは世界的に見ても莫大なものになります。将来的にこれを有効活用するためにも、はじめから EHS 分類に則った形でデータを入力する必要があると考えた次第です。

会員の皆様方にはこれまで 2006 年版 JHS 分類の臨床応用と普及に関して多岐にわたるご協力・ご支援を頂き心より感謝しておりますが、このような状況をご理解いただき、今後は「2021 年版 鼠径部ヘルニア分類（新 JHS 分類）」を広くご活用いただきますよう、お願い申し上げます。

謹白

文献 1 : International guidelines for groin hernia management

Hernia (2018) 22:1–165

<https://doi.org/10.1007/s10029-017-1668-x>

資料 1 : European Hernia Society の分類 (EHS 分類) 資料 2 : 2021 年版鼠径部ヘルニア分類 (新 JHS 分類)

資料 2 : 2021 年版鼠径部ヘルニア分類 (新 JHS 分類) とその解説